

02 | HAPS 視察

今回、文化首都を目指すうえで、京都市の文化の育成をどのように行っていくべきかを検討するにあたって、京都市の支援する事業のなかでも注目を集めるHAPS（東山アーティスト・プレイスメント・サービス）の事業を視察に伺いました。

2011年9月、かの有名な六波羅蜜寺がある六原学区に若手芸術家を支援する事業として設立されたHAPS。この事業は、国と京都市から計1,500万円の助成金を受け、現代アートの若手芸術家のために相談窓口の開設・住まいや発表の場の情報提供などアートと社会をつなぐ活動を行っています。ここで注目すべきは、地域の空き家対策との連携です。京都市の空き家率は14.1%もあり、地域の活力低下を招く他、老朽化により危険家屋となります。

一方、芸術家は作品制作のために通常の住まいよりも広いスペースを必要としており、このニーズと空き家のマッチングをHAPSは実施しています。

香川県の直島（空家有効活用の成功事例）と同様、まちの活性化に繋げる一歩となればと思います。しかし芸術家に対する支援は財源の捻出が厳しく、財政状況が厳しい中で文化政策は予算の優先事項とは成り難いのは明白です。ただ、経済が文化を支えるのではなく、文化が経済を支える視点を持ちながら、文化政策のあり方を考える視察になりました。



↑ HAPSホームページ

03 | 緊急出版！日本初の「地域政党」本

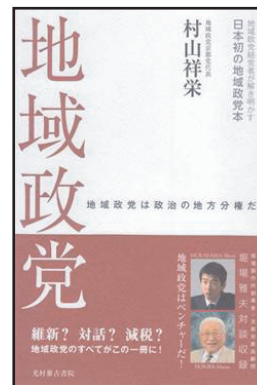
地域政党～地域政党は政治の地方分権だ～

このたび、「地域政党 京都党」代表 村山 祥栄による、日本初の地域政党本「地域政党」が発刊されました。

維新、減税、大地、地域政党って一体何なの？
地域政党は何がしたいの？

わかるようで分からない地域政党。

堀場製作所 創業者 堀場雅夫 対談収録
皆さん是非ご高覧をお願いします。



書店、ネットにて好評発売中。
出版社 光村推古書院
定価 1680円（税込）

01 | 「京都市清酒の普及の促進に関する条例の制定について」

今回の定例会では自民党より京都市清酒の普及の促進に関する条例が提出され、全会派一致で可決されました。この条例案はこれまで京都党が提出してきたものとは異なり、特に拘束力を持たない“理念条例”の要素が強いものです。京都党としては、「清酒が認められたのなら〇〇も、△△も・・・」と理念条例が次々に作られることを危惧し、委員会でも指摘しました。ただし、清酒の普及に関して特段反対するものでもないため最終的に賛成することを決定しました。まだまだ議員発信の条例制定自体少なく、そのなかでも理念条例が目立ちますが、今後持続可能な京都市政運営のためにより行政改革や財政面に関する提案など発信力のある条例提案を積極的に行って参ります。

02 | 続、技能労務職採用再開か？

ごみ収集職員をはじめとする現業職は「民間に出来る事は民間に」を掛け声に既に採用を廃止しておりましたが、一昨年突如再開したことは以前の機関紙でも掲載したとおりです。京都党はこれまでから条例を出すなど激しく抵抗を繰り返して参りました。9月定例会では、我が会派の佐々木議員の代表質問で改めて確認したところ、「昨年の採用後は大変よい兆候が見られ、採用したこと自体よい判断で、引き続き採用したい」との旨を行財政局が議会に報告しました。これには、京都党のみならず、自民・公明からも激しい批判が相次ぎました。経済総務委員会では、村山議員が「議会の合意が済むまで絶対に採用しないこと」を言及させた上で、抵抗勢力となっている労働組合の参考人招致と委員会でのごみ収集の職場に対する実地調査を提案しました。いずれにせよ、なし崩し的な組合偏重の採用を断固として阻止するべく自民、公明各会派と共に引き続き取り組みたいと思います。

03 | 学校でのいじめ対策～教育現場のいま～



昨年の滋賀県大津でのいじめの事件を皮切りに、京都市でもいじめ対策を改めて見直すと共に、いじめ発見の強化、未然防止への取り組み、いじめ発見後の被害者へのきめ細かな対応と加害者への抜かりない指導を求めてきました。しかし現場からは、いじめと気づきながらも、教員一人ではとても対応しきれない案件も多く、懸命に向き合いながらも対応の難しさに途方に暮れるといった、悲鳴の声も聞こえてきます。京都市として教育委員会及び学校現場での対応強化を提案することは

もちろん、議員としても対応できる窓口を持ちたいと、「いじめ110番」を設置しました。今、他府県のいじめ対策に取り組む地方議員とも連携して、いじめ問題の対応にあたっています。